

「 命を守る行動の大切さ 」

広島県 呉市立安浦小学校 5年 本谷 芽唯

「山が変なおいがる」

私は、3年前の7月6日の夜お母さんに言った。私は、土砂災害が起こる前に山からおいがるという事をひいおばあちゃんから聞いたことがあったので不安になりました。

その時！家の電気がピカッピカッと消えました。

大雨、強風、停電、山からの変なおいとすべてが重なり2年生だった私はパニックになり泣き出してしまいました。

きん急家族会議の結果ひいおばあちゃんの家ひなんしよう、という事になりました。そのため、お母さんとお父さんが荷物をじゅんびし始めました。服や、日用品。私と弟はおかしをリュックサックにつめこみました。車に行くまでにみんなベチャベチャになりながら、ひなんしているとくもんの前のマンホールから水が吹き出していました。初めて見たのでビックリしました。

また、道路がかん水していたので、ひいおばあちゃんの家ひなんできずにコンビニに車を止めていると、どんどん人が集まってきてコンビニが人と車だらけになりました。

「何か食べ物を買っていこう」

とお母さんが言って中に入ると、水はもちろんお弁当もおかしもまったくありませんでした。私は、友達の家はだいじょうぶなのか学校はどうなっているのか考えれば考えるほどこわくてたまりませんでした。やっとコンビニからひいおばあちゃんの家に行っていると、と中に川が何かあります。お母さんやお父さんが車のまどから川を見て

「いつあふれてもおかしくないね」

「そうじゃね。ヤバイね」

という会話をしているのが聞こえてきます。

その日の夜は、こわくてあまりねむれませんでした。

次の日の朝、おばあちゃんの

「川がすごい事になるとよ」

という声で目が覚めました。川から聞いた事ないような大きな音が家の中まで聞こえてきました

。一夜で安浦は変わってしまいました。電車も水も止まり安浦町そのものが大きな一つの池のようでした。私の家族も家もみんなぶじだったのでよかったけど、同級生には家や車がひがいにあったりした子もいました。

安浦小学校も75センチも浸水し1階はすべてダメになり、2～3日後お母さんとお父さんがそうじの手伝いに行きました。お母さんとお父さんによると土砂を運ぶのが一番しんどかったそうです。

私達は、そのまま夏休みに入りました。夏休みでも、友達と遊べるわけでもなく、大人達は常に動き回り大変そうでした。私も、近くの井戸に水くみの手伝いをしました。

あんな夏休みは二度とけいけんしたくないです。

広島は、自然災害の起きる確率が一番高い県です。

3年たった今でも少しの雨でけいほうの音が鳴るとあの夜を思い出し、こわいです。

あのころより少し大きくなった私は、命を守る行動について勉強した事を家族やみんなに知ってほしいと思います。

そして、一人でも多くの命が助かればと思います。